

第1回「京都市はぐくみ推進審議会」全体会議における
「京都市はぐくみ・働き方改革宣言（案）」に対する主な御意見について

- はぐくみ推進審議会としてこのタイトルで宣言を出すのであれば、青少年・若者の視点をもっと入れるべきではないか。
- 「子どもを施設に預ける時間は短い方が良い」、「仕事が終わったらすぐに迎えに行くのが良い」、「親子の時間は長い方が良い」という姿が全体的に強調されすぎているように見える。
- 仕事が終わった後に、地域のボランティアに参加する人もいると思う。例えば、地域の中で、若者たちが、子育てをお手伝いしていくといったことも視野に、宣言の内容をもっと豊かなものにできないか。
- 労働の短時間化は、下手をすると収入の低下にもつながるため、それだけを前面に出すことについては吟味がいる。
- 京都市では、小学校を地域で力を合わせて作って、人を育て、文化芸術を大事に、ものづくりをしようという精神があった。宣言からは、こうした歴史に学んで、地域力を最大限に生かそうという理念は感じるが、更にしっかりと表現できないか。宣言自体はいいと思うので賛同する。
- 平成27年度の子ども・子育て新制度の導入に当たり、労働について議論しないと、子どもの問題について、施設をどう作るかなど、量の確保の問題だけに終始してしまうのではないかという思いをずっと持ってきた。若者も含めて、人が働くということはどういうことなのか、子育てと子どもが育つという軸の中に入れて議論したい。
- はぐくみ推進審議会として宣言を出す意義をしっかりと検討する必要がある。例えば、現在、策定に向けて議論している新計画をしっかりと練り、前文等に反映していくことの方が重要ではないか。